



< 参考 >

平成 19年 12月 20日

第三管区海上保安本部

平成 19年第三管区海上保安本部十大ニュース

今年も、当本部では事件・事故に限らず数々の広報案件を発表させていただきましたが、ここに本年の締めくくりとして、当本部職員及び一般の方々へのアンケート結果をもとに、「平成 19年第三管区海上保安本部十大ニュース」を取りまとめましたので、下記のとおり発表します。

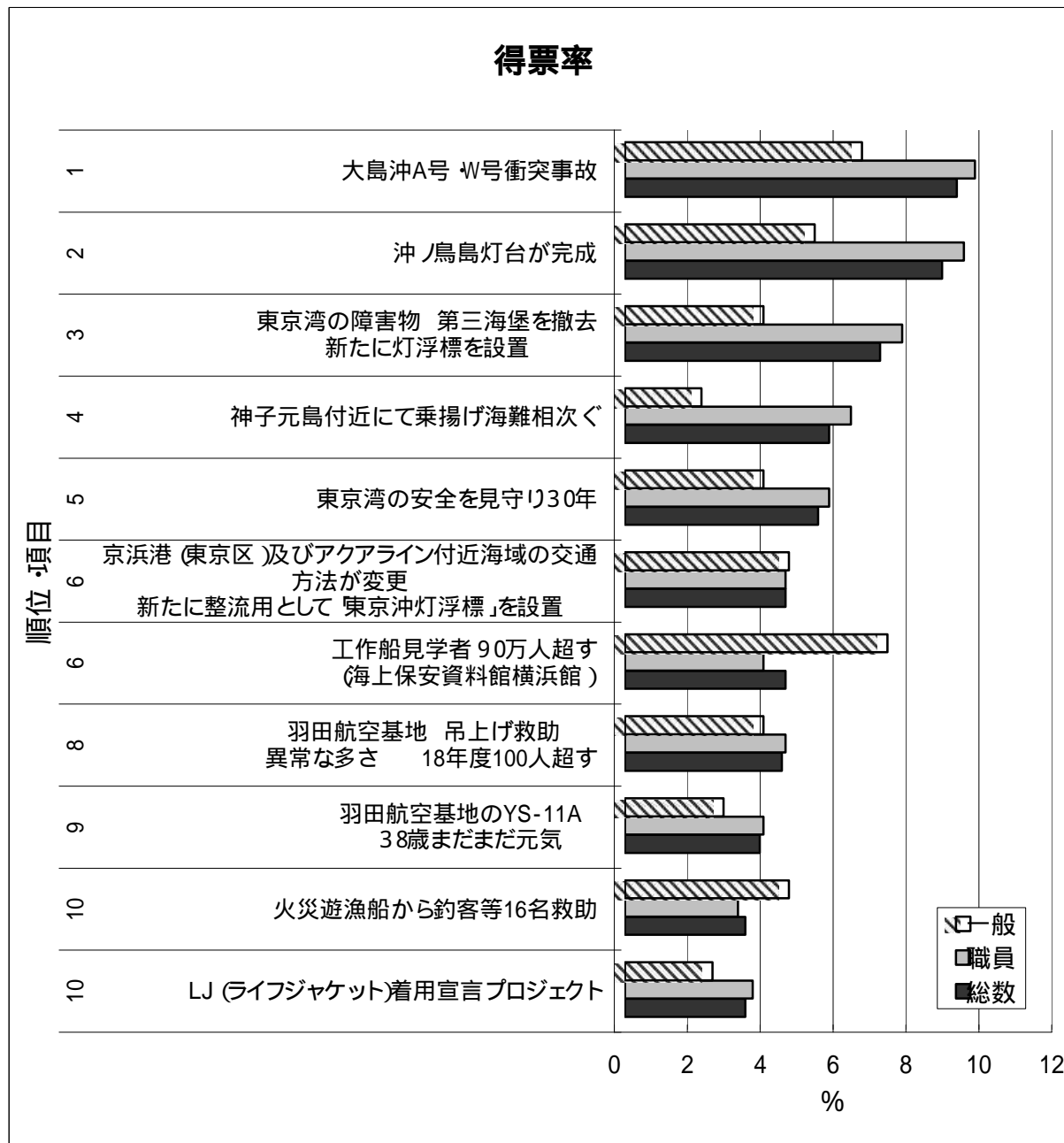
詳細は、別紙 1 , 2 のとおりです。

記



- 第 1 位 大島沖 A 号・W 号衝突事故 (下田)
- 第 2 位 沖ノ鳥島灯台が完成 (本部)
- 第 3 位 東京湾の障害物 第三海堡を撤去 新たに灯浮標を設置 (本部)
- 第 4 位 神子元島付近にて乗揚げ海難相次ぐ (下田)
- 第 5 位 東京湾の安全を見守り 30 年 (東京湾海上交通センター)
- 第 6 位 京浜港 (東京区) 及びアクアライン付近海域の交通方法が変更
新たに整流用として「東京沖灯浮標」を設置 (本部)
- 第 6 位 工作船見学者 90 万人超す (海上保安資料館横浜館)
- 第 8 位 羽田航空基地 吊上げ救助 異常な多さ 18 年度
100 人超す (羽田航空基地)
- 第 9 位 羽田航空基地の Y S - 11 A 38 歳まだまだ元気 (羽田航空基地)
- 第 10 位 火災遊漁船から釣客等 16 名救助 (東京)
- 第 10 位 LJ (ライフジャケット) 着用宣言プロジェクト (本部)

順位	項目	得票数
1	大島沖A号 W号衝突事故	167
2	沖ノ鳥島灯台が完成	159
3	東京湾の障害物 第三海堡を撤去 新たに灯浮標を設置	128
4	神子元島付近にて乗揚げ海難相次ぐ	102
5	東京湾の安全を見守り30年	97
6	京浜港 (東京区)及びアクアライン付近海域の 交通方法が変更 新たに整流用として「東京沖灯浮標」を設置	80
6	工作船見学者 90万人超す (海上保安資料館横浜館)	80
8	羽田航空基地 吊上げ救助 異常な多さ 18年度100人超す	79
9	羽田航空基地のYS-11A 38歳まだまだ元気	67
10	火災遊漁船から釣客等16名救助	61
10	LJ (ライフジャケット)着用宣言プロジェクト	61
総得票数		1,835




投票者数 413名 (職員 350名、一般 63名)



平成 19年三管十大ニュース順位表

順位	月	主な事務所等	件 名	概 要 説 明
1	7月	下田	大島沖A号 W号衝突事故	<p>7月 27日午前 2時 20分頃、伊豆大島北側海域において、ギリシャ船籍貨物船A号 (77,211トン)とシンガポール船籍コンテナ船W号 (25,836トン)がほぼ直角に衝突し、突き刺さった状態で漂流した。</p> <p>コンテナ船に衝突した貨物船の船首部分</p> 
2	3月	三本部	沖ノ鳥島灯台が完成	<p>海上保安庁が日本最南端の沖ノ鳥島 (東京都小笠原村)に建設していた灯台が完成、3月 16日運用を開始した。名称は「沖ノ鳥島灯台」で、周辺海域を航行する船舶や操業漁船の安全と運航効率の増進に寄与することになる。</p>  <p>沖ノ鳥島灯台</p>

3	8月	三本部	東京湾の障害物 第三海堡を撤去 新たに灯浮標を設置	<p>東京湾口の浦賀水道航路西側至近にあり、障害物として多くの海難事故の原因となっていた第三海堡。平成12年から行われてきた撤去工事がようやく完了し、8月20日、浦賀水道航路に接した障害物がなくなったことで、東京湾内を航行する船舶の安全が確保された。この撤去に伴い新設されたのは浦賀水道航路第5号灯浮標。三管本部の設標船「ほくと」が設置した。</p> <p>浦賀水道航路第5号灯浮標を 設置する設標船ほくと</p> 
4	10月	下田	神子元島付近にて乗揚げ海難相次ぐ	<p>10月4日、日本船籍の貨物船O号(499トン)は東京から兵庫向け航行中、居眠り運航により神子元島付近浅瀬に乗り揚げた。また、10月30日、韓国船籍貨物船S号(1,204トン)が君津港から韓国向け航行中、自船の船位確認を怠り、神子元島に乗り揚げた。</p>  <p>神子元島付近浅瀬に乗り揚げた2隻の船舶</p>
5	2月	海交センター	東京湾の安全を見守り30年	<p>1977年(昭和52年)2月25日、近代的レーダーシステム等を整備し運用開始された「東京湾海上交通センター」、今年2月で30周年を迎えた。海上交通安全法施行(昭和48年7月)後、初代の海上交通センターとして、情報提供と航行管制の一元的運用のもと、先人達の苦勞と努力で築かれた実績を踏襲し、さらに新たなシステムの活用を図り、変化する海上交通環境に対応した更なる安全確保に努めることとしている。</p> <p>東京湾海上交通センター</p> 

6	8月	三本部 東京 海交セン ター	京浜港 (東京区) 及びアクアライン 付近海域の交通方法が変更 新たに整流用として「東京沖灯浮 標」を設置	<p>東京国際空港 D滑走路建設工事の進捗に併せ、工事区域が拡大されたことから、平成 19年 8月 1日、京浜港 (東京区) 沖合に整流用灯浮標として「東京沖灯浮標」1基を新設し東京西航路に接続する制限区域を新たに設定し、同沖合から東京湾アクアライン付近海域にかけての航行方法が変更された。三管本部では、8月 1日から8月 14日までの間、現場海域に集中的に巡視船艇を配備して新たな航行方法に関する周知活動を含む航法指導を実施して付近海域の通航船舶の安全を確保した。</p> <p>交通方法が変更となる事を知らせるリーフレット</p> 
6	10月	三本部	工作船見学者 90万人超す (海上保安資料館横浜館)	<p>北朝鮮工作船を一般公開している海上保安資料館横浜館 (横浜海上防災基地) の見学者が 10月 17日、90万 900人となり、平成 16年 12月の開館以来、2年 10ヶ月で90万人突破を記録した。</p> <p>100万人突破は、来年春までに達成すると見込まれている。</p> <p>90万人を突破した海上保安資料館横浜館</p> 
8	3月	羽田基地	羽田航空基地 吊上げ救助 異常な多さ 18年度100人超す	<p>羽田航空基地の平成 18年度のヘリコプターによる吊上げ救助者が 3月 29日、年間 100人を超え、過去最高の 102人になった。過去 5年間の吊上げ救助実績は、平成 13年度 17人、平成 14年度 27人、平成 15年度 19人、平成 16年度 44人、平成 17年度 17人だった。</p>  <p>羽田航空基地所属のヘリコプター「MH806 わかわし」</p>

9	7月	羽田基地	羽田航空基地のYS-11A 38歳まだまだ元気	<p>羽田航空基地のYS-11A型機「LA701」(ブルーイレブン)が7月4日、飛行2万2222時間無事故を達成した。地球を約200周した飛行計算で、現役最古参機は元気だ。</p>  <p>無事故を達成したYSをバックに、基地職員が記念撮影</p>
10	10月	東京	火災遊漁船から釣客等16名救助	<p>10月6日、遊漁船「第八はしや丸」(15.56トン)は、釣客15名を乗船させ、東京港から木更津沖向け出港、羽田空港前面海域を航行中に機室内より出火した。東京「Cしやまぶき」は、港内巡回中に同船を発見し現場に急行、乗船者全員を救助し、その後、東京所属艇及び東京消防庁臨港消防署消防艇により放水し消火した。</p>   <p>火災が発生した遊漁船 火災中の遊漁船の消火にあたる海上保安官</p>
10	3月	三本部	LJ (ライフジャケット)着用宣言プロジェクト	<p>第三管区海上保安本部マリンレジャー安全推進室では平成19年4月1日からプレジャーボート、遊漁船の乗船者に対するライフジャケットの着用率向上を目指し、さかなくんがイラストを手掛けたステッカーを利用したLJ (ライフジャケット)着用宣言プロジェクトを開始した。</p>  <p>ライフジャケット着用宣言のイラストを描いたさかなくん</p>

12	4月	三本部	海上保安部に交通課が発足	平成19年4月1日から管内の全海上保安部の航行援助センターが廃止され、新たに交通課が設置された。
13	5月	横須賀	東海汽船「セブンアイランド愛」船内において負傷者発生	5月19日、大島から久里浜港向け航行中のジェットフォイル(279トン)船内において、船の動揺によりガラスが割れて乗客27名が顔を切る等の怪我を負った。
14	2月	横須賀	鵜沼海岸サーフィン未帰還者	2月24日、30代女性は友人3名と鵜沼海岸へ出かけ、午後2時30分ごろから男性友人1名とサーフィンを始めたところ、折からの強風により沖合に流され、二人は海岸へ戻ろうとしたが2時間たっても戻れないことから、このままでは二人とも遭難すると判断し、男性は女性のボードを借り助けを呼ぶため、午後4時30分ごろ鵜沼海岸沖合700m付近において、単独で海岸に向かってパドリングを行った。午後5時30分ごろ、男性はようやく海岸に戻り一緒に来た友人を介して110番通報したが、女性はそのまま沖合に流されていた。同通報を受け巡視船艇船・航空機によって周辺海域を捜索した結果、翌25日午前9時ごろ、巡視艇が女性を発見し、救助したもの。
15	9月	東京 横浜	台風9号の強風で走錨の衝突相次ぐ	9月7日、日本列島を縦断した台風9号の影響で京浜港で錨泊中の船舶が強風のため錨が効かず流され衝突事故が相次いだ。横浜市大黒埠頭防波堤にコンテナ船(9,931トン)が接触した。横浜航路沖でバハマ船籍のバラ積み船(105,888トン)と香港船籍のバラ積み船(1,995トン)が衝突。羽田沖約4キロの海上でバハマ船籍の船(13,493トン)とカンボジア船籍の船(1,488トン)が衝突した。
16	3月	千葉 木更津	木更津公共ふ頭にて火災船	3月16日木更津公共ふ頭に着岸中のカンボジア船籍貨物船Z号(1,293トン)から火災が発生、千葉海上保安部所属消防機能強化型巡視艇あわなみ等による消火活動を実施して鎮火させた。
16	8月	茨城	関税法違反事件摘発(偽造カート原料の準備)	8月7日、茨城海上保安部は中国人船員4名を支払い用カート電磁的記録不正作出準備被疑事件として逮捕するとともに、茨城県日立港に停泊中のカンボジア船籍貨物船に対して合同による捜索差押を実施し、船内から同原料であるプラスチック板四千数百枚を押収した。
18	8月	本部 千葉 東京 横浜	第48回海洋少年団全国大会に全面協力	8月3日から6日までの間、千葉市幕張メッセを中心に、(社)日本海洋少年団連盟主催による第48回海洋少年団全国大会が開催された。大会には、高円宮妃殿下がご臨席され、三管区は巡視艇まつなみによる東京湾内視察をはじめ、横浜海上保安部所属巡視船いずの船内見学や千葉海上保安部所属巡視艇あわなみによる体験航海を実施し、当大会に全面協力した。
19	3月	東京	遠洋鮪延縄漁船内殺人事件	2月28日、ハワイ諸島南方にて操業中の日本漁船船内で、喧嘩によりベトナム人船員が中国人船員を包丁で刺し死亡させたとの連絡があったことから、東京海上保安部では殺人事件としてハワイ・ホノルルに捜査官を派遣し、所要の捜査を実施した。

20	1月	横須賀	館山湾内で乗揚げ事故	1月6日、中国船籍貨物船Y号(1,106トン)は主機関の修理のため館山湾に緊急入域のうえ錨泊、その後、荒天避泊していたところ3回に亘り走錨したことから、転錨し双錨泊としたが、1月7日午前11時50分頃、4回目の走錨、急遽、主機関を始動させ揚錨しつつ航行を開始したものの強風等により操船不能となり座礁した。また、同船の北側約200メートルにも無人の台船が座礁していた。Y号は陸上から救助に向かった特殊救難隊員によって救助され、海上自衛隊基地に無事搬送された。
20	3月	三本部 東京	新20m型巡視艇2隻が東京保安部に就役	3月16日及び22日に20メートル型巡視艇いそぎく及びやまぶきの2隻が就役し、東京海上保安部に配属された。この2隻は夜間監視装置、停船命令等表示装置を装備しており、東京湾における危機管理体制が充実強化された。
22	1月	下田	伊東沖海中転落事故	遊漁船の船長は妻・長女・次女を乗せ、遊漁していたところ、手石島付近海域で長女が突然海に転落したことから直ぐに船を止め、長女を助けるため海に飛び込んだが、両名とも行方不明となった。その後、長女は捜索中の漁船に、船長は4日後捜索中のダイバーによって発見されたが両名とも溺水による死亡が確認されたもの。
22	3月	鹿島	船内荷役作業外国人旅券不携帯不法残留で逮捕	2月16日、鹿島港南公共ふ頭に着岸中の外国船内で荷役作業に従事する中国人1名を旅券不携帯で逮捕した。捜査した結果、昨年5月成田空港から不法入国したことが判明した。
22	9月	鹿島	船内荷役作業外国人を旅券不携帯で逮捕	9月10日、鹿島海上保安署は、鹿島港南公共ふ頭に着岸中の中国船籍貨物船C号(1,399トン)船内において荷役作業中の中国人3名を旅券許可書の不携帯で現行犯逮捕した。
25	10月	防除基地	横浜機動防除基地4隊16人体制に増員	海上防災の専門家集団として、海難などで海上に流出した油、有害危険物質の防除や、流出に伴い火災が発生した場合の消火、延焼防止に現場で専門的な判断をし技術的な指導を行う「横浜機動防除基地」が10月1日、4隊16人体制に増強。海上災害に24時間対応できるようになり、全国各地で発生する油や有害危険物質流出時の即応体制が強化された。
25	2月	横浜	3カ国が海賊訓練(タイ・マレーシアと連携)	2月2日、海上保安庁とタイ・マレーシアの海上保安機関による海賊対策合同訓練がタイ・プーケット島沖で行われた。3カ国での合同訓練は今回が初めて。訓練には、横浜保安部巡視船「やしま」をはじめ、タイ海上警察、海事局、マレーシア海上警察から船艇10隻、ヘリコプター3機が参加した。
27	6月	東京	パキスタン海軍軍艦から油流出	6月14日午前0時過ぎ、晴海ふ頭に着岸しているパキスタン海軍軍艦(11,626トン)において、機関士が油が含まれた汚水約60リットルを船内で移送する際にバルブ操作を誤り海上に流出させた。
28	6月	横浜	横浜港内における船舶の窃盗について	6月26日午後10時頃、横浜海上防災基地係留区域にロシア人1名が乗船したプレジャーボートが侵入していたのを停泊当直中の巡視船乗組員が発見、停船を求めたが逃走を開始したことから監視取締艇で追尾し補足、同プレジャーボートを窃盗したことが判明したため現行犯逮捕した。

29	8月	横浜	建設発生土不法投棄事件	日本船籍貨物船Y号(1,170トン)は、8月10日横須賀市内の建設現場で発生した建設発生土約1,170トンを積載し、静岡県伊東沖海上において航行中にクレーンを使用して発生土を海上へ投棄したことから、8月12日、横浜海上保安部は海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律違反容疑で貨物船の乗組員を通常逮捕した。
30	6月	三本部	第三管区サミット海上警備準備対策室及び第三管区海上保安本部サミット等海上警備対策本部設置	2008年に開催されるサミットに関連し、開催期間中の海上警備等に関する諸準備作業を的確に推進するため、5月に三管本部内に「第三管区サミット海上警備準備対策室」(室長、警備救難部長)を設置、6月には開催期間中の海上警備等に関する諸作業を組織的かつ統一的に推進するため、三管本部内に「第三管区海上保安本部サミット等海上警備対策本部」(対策本部長：第三管区海上保安本部長)を設置した。
30	3月	下田	初島灯台参観化	かねてから灯台参観化の要望があった下田海上保安部が管理する初島灯台(熱海市初島)は、3月28日、全国で15番目の参観化灯台(常時、内部が公開されている灯台)となった。
30	11月	清水	静岡県知事による視察及び静岡県防災職員に対する海上保安防災業務研修	11月28日、静岡県防災担当職員ら約70名が巡視船「いず」に乗船し、船舶及び海上防災に関する海上保安業務研修を受けるとともにヘリと警備救難艇等が連携した漂流者救助訓練等の見学会を実施した。本訓練中には、静岡県知事が当庁ヘリコプターで巡視船「いず」に乗船され、当該研修・訓練の様子を視察された。
33	6月	三本部 千葉 横浜	千葉県知事による海上保安業務のご視察	6月6日、千葉県知事が横浜海上保安部所属災害対応型巡視船いずに乗船され、海上保安業務視察を行った。
34	9月	三本部	霧海難防止対策の推進により視界不良時の海難発生数が激減	第三管区海上保安本部では、濃霧による視界不良時の海難を防止するために、内航船舶を重点対象に本年5月から8月を重点期間と位置づけて、霧の発生状態を一般船舶に通報する「霧通報」や海難防止指導の徹底と安全啓発活動を推進した結果、視界不良時における海難発生隻数を前年の25隻から5隻に減少させた。
35	1月	横浜 特救基地	初の日越SAR協議開催(ベトナム・ハノイ)	1月22日、海上保安分野での相互協力の第一歩となる日越ハイレベルSAR(捜索救助)協議が、ベトナム・ハノイで開かれた。23日にはダナン沖で、横浜海上保安部巡視船「やしま」と特救隊によるSAR訓練が行われた。
36	8月	三本部	測量船「はましお」の性能公開	報道記者や高校教諭の体験航海など、広報活動にも励む測量船「はましお」は、度々マスメディアに取り上げられた。NHK(2回)・世界の艦船(12月号)ほか、新聞各紙に紹介され、7隻ある20m型測量船のうち平成3年竣工と一番古いものの、その調査能力は世界のトップクラス。
36	9月	三本部	ホルルルJRCCとの合同捜索訓練実施	三管本部(横浜RCC)は、9月11日ホルルル周辺の米軍訓練空域(W194)で、羽田GVおよびバーバースポイント所属航空機(C130, HH65A)との合同捜索訓練を実施し、目標物をホルルルJRCC所属巡視艇で回収した。また、本訓練に併せ日米SAR実務者会合が行われた。